

ステイホームだから、遊ぼう 「おうちでプレイパーク」開園！

横浜市では、子どもたちの自主性や冒険心を育み、生き生きと活動するための遊び場・居場所「プレイパーク」が、市内25か所で開催されています。このプレイパークで子どもの遊びをリードする「プレイリーダー」たちが、自宅で、家の近所で、少人数で楽しめる遊びを紹介する動画を、横浜市と連携して作成しました。「外出は控えたい。でも、子どもと楽しく遊びたい！」そんなコロナ禍の思いに応えます。

1 取組について

(1) 名称

「おうちでプレイパーク」

(2) 概要

身近にある素材を使い、家の中や近所で、少人数で密を避けながら取り組める遊びを、動画（約1分）により紹介します。

(3) 公開日

令和3年3月24日（水） ※一部は2月26日（金）先行公開済み

(4) 公開先

YouTube 横浜市公式チャンネル「CityOfYokohama」

横浜市ウェブサイト

(5) 公開数

10本



動画掲載ページ▲
(横浜市ウェブサイト)

2 内容例

- (1) 「(なんちゃって)着せ替え人形を作ってみよう！」
材料は、クリアファイル（クリアホルダー）などの透明なシートとペン。それだけで、家の中の見慣れたものや身近な風景が、素敵な衣装に早がわり！



- (2) 「コロコロ転がし機」

紙コップとテープを使ってコースづくり。ピンポン玉やどんぐりなど、いろいろなものを転がして遊びます。コンッ、コンッと響く音を楽しみながら、どこまでコースを延ばせるかにも挑戦！



裏面あり

3 取組の背景

新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、横浜市内のプレイパークは令和2年2月末から開催を自粛。その後、6月中旬から順次再開しましたが、再開当初の参加者数は前年比の4割台に落ち込み、前年並みの参加者数になったのは5か月後の11月でした。

再び緊急事態宣言が発令された、令和3年1月の来場者数はほぼ前年並みでしたが、平日は来場者が少ない所があるなど、影響が見られました。また、「外に出てはいけないのではないかとためらう保護者の声も聞こえてきました。

この先も続くコロナ禍で、保護者や子どもたちが外出を控えたいと思うような場面があるかもしれません。そこで、前回の緊急事態宣言の際に、「プレイリーダー」有志がInstagramで公開していた様々な遊びを、動画でより広く紹介することにしました。ステイホームを選んでも、楽しい時間を過ごして、遊びの魅力を感じてほしい。そして、外に出られるときには、自由な発想で思い切り遊んでほしい。そんな思いで取り組んでいます。

■プレイパークについて

プレイパークは、木登りや泥んこ遊びなど、日常なかなかできなくなった遊びを通じて、子どもたちの自主性や冒険心を育み、生き生きと活動するための遊び場・居場所です。地域の住民が主体となって運営し、それを「特定非営利活動法人 横浜にプレイパークを創ろうネットワーク」(YPC)がバックアップしています。横浜市は、こども青少年局と環境創造局が活動に関する人件費等の支援や活動環境の調整等を行う形で、連携しています。

- ・市内開催か所数：25か所（令和2年度）
- ・年間来場者数：122,435人（令和元年度4月～2月）
- ・事業開始：平成19年度（市の事業としての開始年度）

■特定非営利活動法人 横浜にプレイパークを創ろうネットワーク (YPC) について

市内25か所でプレイパークを実施する団体への活動支援、プレイリーダーの雇用及び育成、プレイパーク間のネットワークづくり、プレイパークの新規開設に関する支援等を行っています。

・代表者

岡野 富茂子 理事長

(YPC連絡先：ypcj@yokohama-playpark.net)



▲YPC ネットワーク
ウェブサイト

■プレイリーダーについて

プレイパークでは、「プレイリーダー」と呼ばれる大人のスタッフが子どもたちを見守っています。大きな事故が起きないように、安全に気を配りながら、子どもたちが自由に、のびのびと遊べるようにサポートしています。

- ・プレイリーダー数：22人（令和3年3月現在）(YPCが雇用し、各プレイパークで活動)

プレイリーダー 甲斐 琢人 さん（動画に登場する「かいかい」さん）より）

「こんにちは！今回、皆さんに家庭の中でも楽しい遊びの時間を過ごし、気持ちを楽にして頂けたらな、と思い遊びの紹介をいたしました！簡単にできる遊びなので、ぜひ親子で一緒にチャレンジしてみてくださいね♪」

お問合せ先

こども青少年局放課後児童育成課長 松原 実千代 Tel 045-671-4151